

平成29年11月28日

No. 17-312

株式会社 いよぎん地域経済研究センター

県内の宿泊市場と宿泊事業者の動向

～愛媛はインバウンドの追い風に乗れるか！？～

株式会社 いよぎん地域経済研究センター（略称IRC、社長 重松 栄治）では、このたび下記のとおり、県内の宿泊市場と宿泊事業者の動向について調査結果を取りまとめましたので、お知らせいたします。

なお、詳細は2017年12月1日発行の「IRC Monthly」2017年12月号に掲載いたします。

記

【調査概要】

- ・ インバウンドの勢いが止まらない。2016年の外国人延べ宿泊者数は、調査開始以来、最高を記録した。
- ・ 愛媛の外国人延べ宿泊者数の全国順位は下位だが、前年比伸び率は全国で4番目に高く、台湾や香港を中心に愛媛を訪れる外国人は着々と増加している。
- ・ 県内の宿泊事業者へのアンケート調査では、約8割の事業者が外国人宿泊者数は「3年前と比べて増加」と回答した。
- ・ 外国人宿泊者受け入れのため何らかの取組みを行っている事業者は約7割、今後実施を検討したい事業者を含めると約9割となった。
- ・ 今後の外国人宿泊者の受け入れ意向については、「積極的に受け入れたい」が40.7%、「自然体で受け入れたい」が48.1%になり、合わせて9割近くの事業者が前向きな姿勢を示した。
- ・ 将来的に日本人宿泊市場の縮小が見込まれるなか、日本人宿泊者とのバランスを考慮しながらも外国人を受け入れていく必要があるだろう。
- ・ そのためには、外国人を呼び込むための地道な取組みが大切だ。加えて、愛媛らしさが感じられるサービスを提供することで、口コミによるプロモーションやリピート率の向上につながると考えられる。

はじめに

インバウンドの勢いが止まらない。昨年の訪日外国人旅行者数は2,400万人を超えたが、今年に入っても増勢が続いており、11月時点で昨年1年間の実績を上回った。

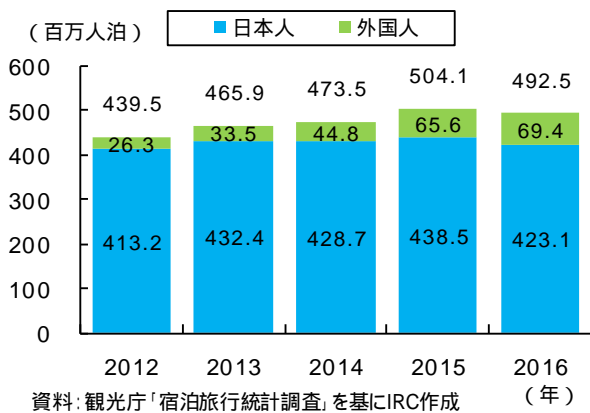
今回は県内のインバウンドを中心とした宿泊市場について調査し、その現状と今後の方向性について調査を取りまとめた。

1. 全国の宿泊市場

(1) 延べ宿泊者数は外国人の伸びが顕著

2016年の全国の延べ宿泊者数は、全体の8割強を占める日本人が減少したため前年を下回った(図表-1)。日本人延べ宿泊者数は年によって増減があるが、将来的には人口減少によりその市場規模は縮小すると想定される。一方、外国人延べ宿泊者数は毎年増加しており、16年は07年の調査開始以来過去最高となった。ただ、外国人旅行者が民泊やクルーズ船を利用する場合、宿泊者数にカウントされない。そのため、16年の訪日外国人旅行者数は前年比21.8%増となったが、外国人延べ宿泊者数の伸びは同5.8%にとどまっている

図表-1. 延べ宿泊者数の推移(全国)

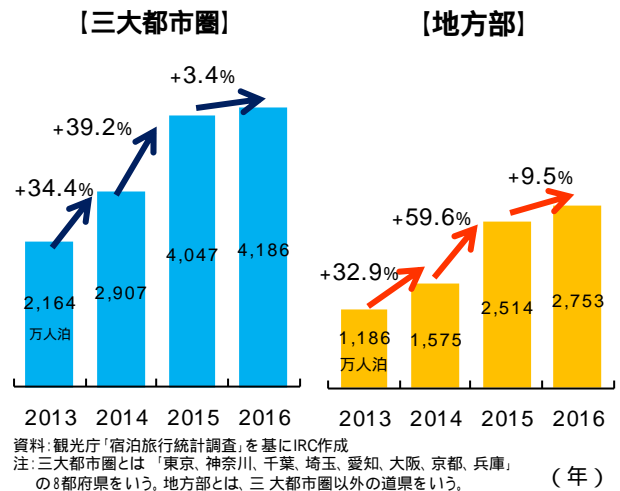


¹ 延べ宿泊者数は連泊もカウントする。1人が2泊した場合2人泊と数える。

(2) 外国人は都市部から地方へ

外国人延べ宿泊者数を「三大都市圏」と「地方部」に分けてみると、16年の三大都市圏の延べ宿泊者数は4,186万人泊で地方部の2,753万人泊の約1.5倍となったが、前年からの伸び率は地方部が上回っている(図表-2)。訪日外国人客の宿泊地の傾向が、大都市集中から地方分散へ変わりつつあることがうかがえる。

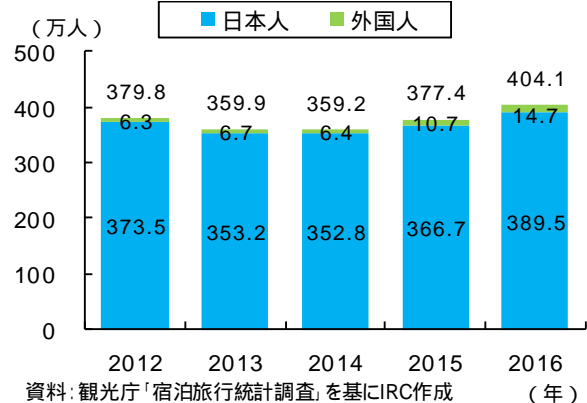
図表-2. 三大都市圏と地方部の外国人延べ宿泊者数



2. 愛媛の宿泊市場の動向

2016年の愛媛の延べ宿泊者数は日本人・外国人ともに前年を上回り、伸び率は前年比7.1%増と全国で最も高かった。外国人延べ宿泊者数は全国37位で存在感は薄いですが、台湾や香港を中心に愛媛を訪れる外国人は着々と増加しており、伸び率は前年比37.3%と全国で4番目に高かった。

図表-3. 延べ宿泊者数の推移(愛媛)



3. 県内の宿泊事業者へのアンケート

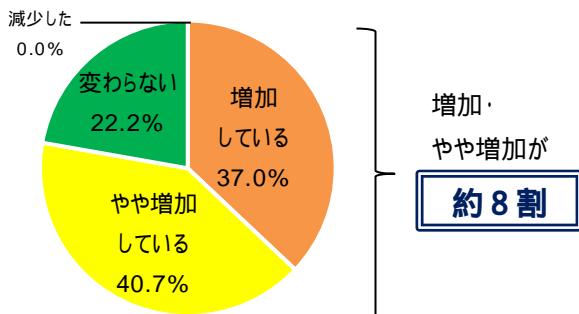
外国人延べ宿泊者数が増加するなか、県内の宿泊事業者はインバウンドに対しどう考えているのか、どんな取り組みを行っているのかを把握するためアンケートを実施した。

アンケートの概要	
調査時期	2017年11月
調査対象	愛媛県内の宿泊事業者（30先）
調査方法	メールまたはFAXにて調査票送付
有効回答	27先（回答率90.0％）

（1）約8割の事業所で外国人宿泊者数が増加

外国人宿泊者数が3年前と比べ増加しているか尋ねたところ（3年以内に開業した施設は開業年以降の増減）、約8割の事業者が「増加している」「やや増加している」と回答した。「減少している」と答えた事業者はいなかった（図表 - 4）。

図表 - 4.外国人宿泊者数の増減

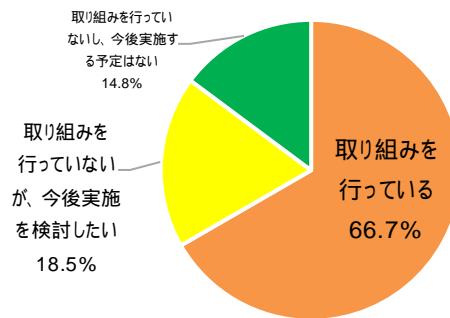


注：小数点以下第2位を四捨五入して表記しているため、内訳の合計が100%にならないことがある（以下同じ）。

（2）外国人宿泊者受け入れのための取り組み

外国人宿泊者受け入れのための取り組み状況について尋ねたところ、「取り組みを行っている」が66.7%、「取り組みを行っていないが、今後実施を検討したい」が18.6%となった（図表 - 5）。「取り組みを行っていないし、今後実施する予定はない」と回答した先では、宿泊者全体に占める外国人宿泊者の割合が低い傾向がうかがえた。

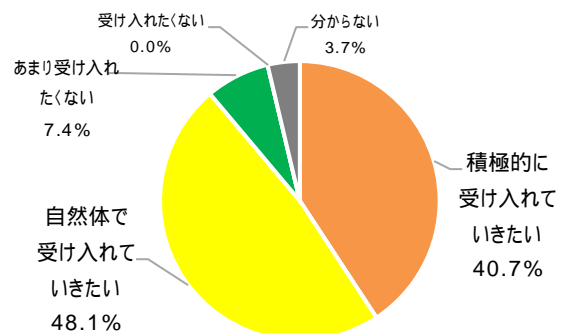
図表 - 5.外国人受け入れのための取り組み



（3）今後の外国人の受け入れ意向

今後の外国人宿泊者の受け入れの意向を尋ねたところ、「積極的に受け入れていきたい」が40.7%、「自然体で受け入れていきたい」が48.1%となり、9割近い事業者が外国人宿泊者の受け入れに対し前向きな姿勢を示した（図表 - 6）。

図表 - 6.今後の外国人受け入れ意向



4. 今後の方向性

（1）政府の掲げる目標

政府は東京オリンピックが開催される2020年に訪日外国人旅行者数を4,000万人、30年には6,000万人に増やす目標を掲げている。

さらに、観光を地方創生につなげるため、三大都市圏²以外の地方部における外国人延べ宿泊者数の割合を20年までに50%まで高め、7,000万人泊とすることを目指している。これは16年の約2.5倍に相

² 「東京、神奈川、千葉、埼玉、愛知、大阪、京都、兵庫」の8都府県

当し、愛媛に当てはめると単純計算で37万人泊近くまで増加することとなる。

(2) 2020年に向けた愛媛の取り組み

愛媛でも2020年に向け様々な施策が行われている。16年3月の県の「第2期愛媛県観光振興基本計画」では「東京オリンピック・パラリンピックを契機とした国際観光の一層の推進」という項目でインバウンドに言及している。主な施策は以下のとおり(図表-7)。

図表-7 愛媛のインバウンドに関する主な施策

海外での認知度の向上と外国人観光客の受入環境の整備	
取り組み内容	
【東アジア、東南アジアなどをターゲットとした誘客・プロモーションの展開】	
○サイクリングプロモーション(台湾)、旅行展への出展(シンガポール・インドネシア)	
【おもてなしの心を伝える外国人観光客受け入れ環境の充実・強化】	
○Free-WiFiアクセスポイントの整備拡大、観光関係者への外国語研修の開催	
【訪日外国人誘客につながる観光資源の発掘、活用と情報発信】	
○海外メディア招聘、伝統的特産品の現状調査・販路開拓分析	
広域連携による外国人観光客の誘致促進	
取り組み内容	
【広域観光周遊ルート等を活用した誘客促進】	
○四国運輸局やせとうちDMOと連携したせとうちPRツールの作成	
【近隣県と連携した国のビジット・ジャパン地方連携事業による誘客】	
○四国一周サイクリングの情報発信、周遊バスでの外国人誘客促進	
【東京都などと連携した外国人観光客の本県への誘導】	
○中四国各県・交通事業者の連携による東京からの誘客に向けた情報発信	

(3) 県内の宿泊事業者のインバウンド対応

A. 日本人宿泊者とのバランス

日本人の宿泊市場の縮小が見込まれるなか、愛媛の宿泊事業者の多くは外国人を取り込む必要性を感じているようだ。しかし外国人の割合が高くなりすぎると、慣習やマナーの違いによるトラブルが発生し、日本人宿泊者の心証を害する恐れがある。また外国人宿泊者は為替動向や政治的要因の影響を受け安定しない面もあるため、日本人宿泊者とのバランスを考慮しながら、外国人を受け入れる必要があるだろう。

B. 外国人呼び込みの布石

外国人受け入れのために積極的な取り組みを行っている事業者のなかには、海外の旅行代理店に直接アプローチしたり、現地で開催される商談会に参加

したりすることで、コネクション作りに力を入れているところもあった。このような先を見据えた地道な取り組みこそが、将来の布石になる。

個人旅行者が増えているため、インターネット予約の重要性も高まっている。愛媛でも「Booking.com」などの外資系予約サイトの活用が進んでおり、確実に外国人宿泊者の増加につながっている。

C. 愛媛らしいサービスの提供

調査を実施した宿泊施設のなかには、芸者による接待、水軍太鼓ショーなどのサービスを実施しているところがあり、外国人の好評を得ている。施設によって実施できないものがあると思われるが、愛媛らしさが感じられ、魅力のあるサービスを継続的に提供することが重要だ。外国人に感動を与え、口コミによるプロモーションやリピート率の向上につながると考えられる。

おわりに

道後温泉を代表とする観光資源、豊かな自然、美味しい食べ物、温暖な気候、俳句文化、充実したサイクリング環境、そして、四国遍路で培われた「おもてなし」の心。愛媛には、外国人観光客を惹きつけてやまないものがたくさんある。インバウンドの追い風は地方に波及しつつあるが、それを加速させるのは、交通インフラであり、魅力ある快適な宿泊環境であろう。人口減少が進む地方にとって、観光による交流人口の増加は地域活性化の大きな柱である。今こそ、官民挙げてインバウンドへの対応力、「OMOTENASHI」を磨くことが求められる。

(渡辺 勇記)